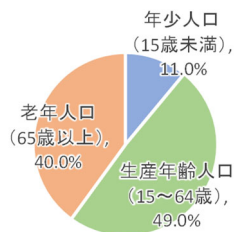


清 富 (きよどめ)

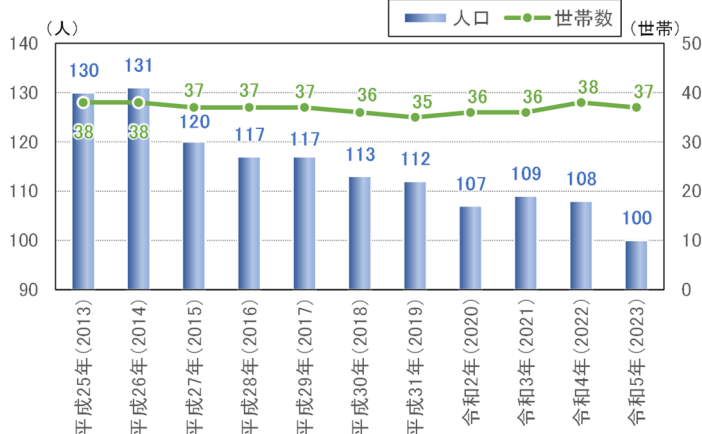
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人 口	100 人
世 帯 数	37 世帯
高齢化率	40.0 %

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立 地 集落の北側には標高245mの観音山が迫り、田井川の下流で久斗川が岸田川に合流する地点に位置する。集落の中を県道三尾浜坂線が走る。

地名由来 天平9年(737)創建とされる極楽寺(現在の相応峰寺、貞観元年(859)に相応峰寺に改称と伝わる)の寺名から、中世には極楽寺村と言った。寛永4年(1627)、宮城豊嗣が陣屋を置いた頃に「清富」と改めたとされ、地名の由来は、岸田川の木をここで止めた木留から転じたとする説や予祝名とする説がある。(「たじま地名考」日本海新聞)

歴史等 極楽寺の門前村として発達した。観音山には戦国期の城跡があり、垣屋氏が居城したという。

近世の清富村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領郡代官領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保12年(1727)からは幕府領となった。寛永4年(1627)に宮城豊嗣が芦屋の陣屋を当地に移し、以後16年間続いた。豊嗣は、城下町のように村を整然と区画し、岸田川を大改修して村高を増やした。宝暦10年(1760)の家数50。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は115石余。

明治22年(1889)東浜村の大字となり、明治24年(1891)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数51、人口は男127・女135。

これまで把握している文化財

文化財の件数 57 件 (うち指定等文化財 9 件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	3	1	
		石造物	2	0	
		工作物・その他の構造物	0	0	
	美術工芸品	彫刻	2	2	
		絵画	3	3	
		工芸品	5	1	
		書跡・典籍	0	0	
無形文化財	古文書・歴史資料・考古資料	2	0		
	音楽	2	0		
	演劇	0	0		
	工芸技術	0	0		
	その他の無形文化財	0	0		
	民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	3	0
			祭具	0	0
民具			0	0	
その他の有形の民俗文化財			1	0	
無形の民俗文化財		年中行事・民俗芸能	4	0	
		民俗技術	0	0	
		食文化	0	0	
記念物	遺跡	民間説話・俗信	10	0	
		その他の無形の民俗文化財	0	0	
		散布地・集落跡・生産遺跡	0	0	
		古墳・その他の墓	9	0	
		城館跡・寺社跡	3	0	
		街道・古道等	0	0	
		戦争遺跡	0	0	
	名勝地	その他の遺跡	1	0	
		山岳・高原・丘陵	1	0	
		海岸・海浜・島嶼	0	0	
	動物・植物・地質鉱物	河川・滝・溪谷・湖沼	0	0	
		公園・庭園	0	0	
		その他の名勝地	2	0	
動物・植物・地質鉱物	動物	0	0		
	植物	1	1		
文化的景観	地質鉱物	3	1		
	生活・生業・風土により形成された景観地	0	0		
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0		



相応峰寺圓通殿



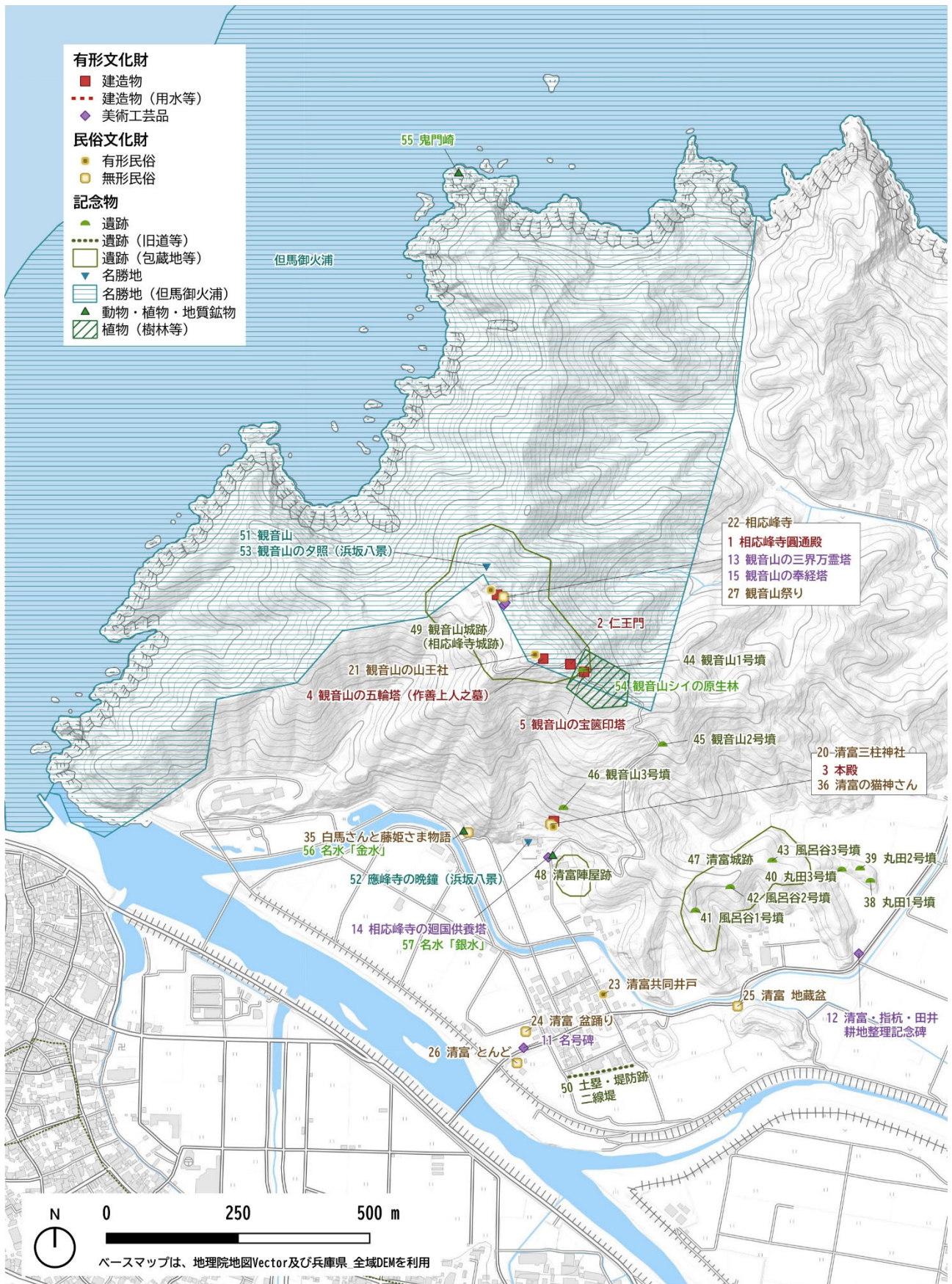
木造十一面観音立像



名号碑

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

1-03 清富

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	相応峰寺圓通殿	観音山頂上に位置する天台宗相応峰寺の仏堂。木造平屋建、寄棟造、棧瓦葺の三間堂で、唐様の簡素な建築。内部は、礼堂・脇陣・内陣からなる中世仏堂形式であり、内陣には唐様の須弥壇上に彩色をもつ厨子が安置されている。向拝には丹波地方で活躍した中井権次正貞の彫刻が施されている。棟札が残り、年代（天保3年（1832））や大工棟梁等、建立の経緯が判明している。地域の歴史や文化の特徴を示すものとして注目される。 県登録有形文化財
	2	相応峰寺仁王門	観音山の登山道の途中に位置する。切妻・瓦屋根のかかる素朴な仁王門で、左右には赤く塗られた阿形と吽形が安置されている。
	3	清富三柱神社本殿	彫刻は、文化14年（1817）、丹波柏原の彫物師中井権次の作である。
石造物	4	観音山の五輪塔 （作善上人之墓）	建立年は不明。基壇が宝篋印塔の基壇であることから、以前は宝篋印塔であった可能性がある。
	5	観音山の宝篋印塔 （1815年建立）	相応峰寺観音山の頂上にある。文化12年（1815）9月建立。切石を四段積み上げ、その上に基壇を設ける。塔の高さは、基礎以上290cm、地上全高540cmで、いずれも但馬では最高である。反花座は、正面に「施主万人講」の文字を刻むが、他の三面は無地である。基礎は、正面に「寶篋印塔」の文字を、他の側面には梵字と年紀・願主などを刻む。塔身は、各側面の周囲を輪郭で巻き、月輪を浮彫して金剛界四方仏種子を刻む。相輪は上部で折れて、二輪程短くなっているが、セメントで継いでいる。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	6	木造十一面観音立像	相応峰寺の観音像は、斉衡3年（856）作善上人が浜坂を訪れた時、矢城の観音島付近で観音像を勧請して安置されたものと伝わる。観音像は、カヤの一本造りで高さは約1.8mあり、顔やひだの造りから平安時代初期の作と推定されている。お香の煙で黒く光る姿は、霊像ともいふべき、見る人の心を引きつける観音像である。毎年4月18日に行われる春季大祭の時のみ公開される。胎内仏は1寸8分（約55mm）の観音様で、矢城ヶ鼻の海中から拾い上げたものとされる。この尊像にまぶれて上がったカニ（クソガニ）が、今も尊像のお使いとして山中に住むとされ、食用にはしない。 国指定重要文化財
	7	木造阿弥陀如来立像	相応峰寺の里坊の本尊として安置されており、高さ2尺5寸（約83cm）の木像で、台座及び手と足は鎌倉期と江戸期に修復されているが、顔や衣文等の彫刻の作風から平安時代後期（12世紀）の作と思われる。新温泉町における平安仏教文化を知る数少ない仏像である。 町指定文化財
絵画	8	絹本着色両界曼荼羅図	曼荼羅は、仏教の宇宙観や教理・諸仏を絵画的に図式に現したもので、両界曼荼羅図は大日経による胎藏界と金剛頂経による金剛界の二つを現したものである。相応峰寺の両界曼荼羅図は、因州白豪寺（鳥取県）から室町時代に譲り受けたもので、鎌倉時代の巨勢金崗の作と伝えられている。 県指定重要有形文化財
	9	妙沢筆不動明王画像	相応峰寺に所蔵されている不動明王画像は、妙沢の作と伝えられ、画像の脇に「元徳元年（1329）周沢」の銘がある。相応峰寺の寺宝の一つである。 町指定文化財
	10	絹本着色十六善神像	寺伝によると嘉祥元年（848）塔中学頭西楽院から寄進されたものと言われ、相応峰寺の寺宝の一つである。縦1.5m、横75cmの絹地に描かれており、作者は不明である。 町指定文化財

分類	番号	名称	概要
工芸品	11	名号碑	念仏供養塔は、江戸時代に盛んに行われた「四十八夜念仏」の行事が終わった時などに記念して建てられた石塔で「名号石」「名号はん」などと呼ばれる。清富の名号碑は、慶安5年(1652)と明暦3年(1657)に紀伊屋楠田氏を中心に行われた「四十八夜念仏」で建てられたようである。長年の風雨で読み難くなっているが、中央に「南無阿弥陀仏」、その下に蓮華文が刻まれている。新温泉町内でも比較的古い念仏供養塔である。 町指定文化財
	12	清富・指杭・田井耕地整理記念碑 (1914年建立)	清富・指杭・田井耕地整理は、90余名の関係者によって耕地整理組合が結成され、明治42年(1909)10月に事業着手し、明治44年(1911)に完成した美方郡の中でも一番早く行われた耕地整理事業である。事業の完了を記念して建てられた碑である。
	13	観音山の三界万霊塔 (1689年建立)	元禄2年(1689)建立。流紋岩の自然石型。高さ230cm。主碑銘は「三界萬霊證天菩提也」。塔の側面には村の女人中の名が刻まれている。
	14	相応峰寺の廻国供養塔 (1832年建立)	天保3年(1832)3月建立。安山岩の自然石型。高さ100cm。主碑銘は「奉納大乘妙典日本廻国供養塔」。塔建立の関係者として行者観直、願主地蔵庵智法尼、世話人嘉五郎と刻まれている。
	15	観音山の奉経塔 (1853年建立)	嘉永6年(1853)3月建立。凝灰岩の角柱型。高さ94cm。主碑銘は「奉経塔」。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	16	相応峰寺文書	相応峰寺過去帳他。
	17	相応峰寺観音堂献額句集	天保3年(1831)3月、白馬堂其卯の弟子たちが願主となって献納。縦55cm、横620cmの大きな額。合計187句がのせられ、それぞれが木短冊になっている。海風にさらされて判読困難なものも多い。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	18	清富の盆踊り唄 (仮名手本忠臣蔵)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p136 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p182 参照
	19	清富の盆踊り唄 (数え唄)	※『ふるさとの唄(平成元年度版)』(平成2年、浜坂町公民館発行) p25 参照

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	20	清富三柱神社	祭神は素戔鳴命。貞観年間(859~877)に山城国八坂神社より分霊を勧請したと伝わる。三寶荒神と称したが、明治3年(1870)に三柱神社と改称し、同6年(1873)10月に村社に列せられる。境内社には、愛宕神社(軻遇突智尊)、稻荷神社(保食神)がある。
	21	観音山の山王社	山王社はしいら漬をしていた人々が信仰しており、「観音参りは山王さんから」と言ってお参りした。観音山の山上、仁王門から鐘つき堂までの右上の平地にあり、山王権現を祀る。由来は明確ではないが、観音山の守護神として祀られたと推察される。
	22	相応峰寺	山号は観音山。天台宗の寺院。天平9年(737)に行基によって開かれたと伝わる。当初は「九品山極楽寺」と呼ばれていたが、貞観元年(859)清和天皇より「相応峰寺」の号を賜り、「観音山相応峰寺」と改められた。観音山の山頂には観音堂があり、平安時代初期の作と推定される本尊十一面観音菩薩立像が安置され、毎年春に公開される。その他、相応峰寺には、両界曼荼羅図などの多くの文化財が伝えられている。また、観音山山頂周辺には、シイの原生林をはじめ、貴重な樹木が茂っている。

1-03 清富

分類	番号	名称	概要
その他の 有形の 民俗文化財	23	清富共同井戸	小さな瓦葺の屋根がかけられ、小祠が祀られている。井戸前の立て札には、「昔は雨水や湧き水を生活に使って、個人で井土（戸）を掘ることは大変でいた。石屋さんを頼んで村中で積み上げ貴重な共用井土（戸）でした。観音山相應峰寺の門前町とし、清富陣屋の城下町として賑わい、往来の人々の泉でありました。村の歴史を知る上からも大切に保存をしなければなりません。平成4年11月 清富区長」と記されている。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	24	清富 盆踊り	地区の行事の一つとして、地区青年部、盆踊り保存会が中心となって、毎年8月14日に行われる。近年は生の音頭（太鼓と歌）により、地区住民だけでなく、帰省した人の参加も多く、大変にぎやかな行事となっている。
	25	清富 地藏盆	8月23日に行われる。
	26	清富 とんど	1月7日に行われる。
	27	観音山祭り	4月18日に行われる。
民間説話・ 俗信	28	泥ガメの話	※『はまさかの民話（I）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p9 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p162 参照
	29	かえるの恩返し	※『はまさかの民話（I）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p16 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p164 参照
	30	カワウソとキツネ	※『はまさかの民話（I）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p29 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p162 参照
	31	ミミズとカエル	※『はまさかの民話（I）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p31 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p162 参照
	32	ぼたもち跳ぶなえ	※『はまさかの民話（I）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p48 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p173 参照
	33	わら数えの髻（むこ）	※『はまさかの民話（I）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p52 参照
	34	なぞ解き髻（むこ）	※『はまさかの民話（I）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p54 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p169 参照
	35	白馬さんと藤姫さま物語	※『はまさかの民話（I）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p11 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p156 参照
	36	清富の猫神さん	※『はまさかの民話（I）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p37 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p156 参照
	37	土のこ （つち／つちぐちなわ）	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p199 参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p89 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	38	丸田 1 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 7m。横穴式石室。玉石や 1×3mの石が露出。
	39	丸田 2 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 7m。
	40	丸田 3 号墳	古墳時代の古墳。方形、一辺 7m。
	41	風呂谷 1 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 14m。
	42	風呂谷 2 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 10m。石室の一部と思われる石が散乱している。
	43	風呂谷 3 号墳	古墳時代の古墳。円墳、径 7m。
	44	観音山 1 号墳	古墳時代の古墳。5.2×11.1mの円墳。横穴式石室の一部（天井石）が露出し、石仏が祀られている。
	45	観音山 2 号墳	古墳時代の古墳。円墳。石室の一部が露出。石室の一部と思われる石数点が散乱している。
	46	観音山 3 号墳	古墳時代の古墳。1m前後の石が散乱し、横穴式石室（1×1m）の一部が露出。林道拡張のため破壊。
城館跡・ 寺社跡	47	清富城跡	中世の城館跡。縦堀・郭等が残る。標高 67m地点の北城と、標高 43m地点の南城に分けられる。尾根筋に小曲輪群を配置し、要所に堀切・堅堀を設けて守備する点に特徴がある。南北朝期に築城起源を有し、帯曲輪等によって部分的に室町期に改修を受けている。北城・南城ともに戦国期に堀切・堅堀による補強・改修がみられる。城域も広く、南北朝～室町期には地侍連合か下級国人の持城であったと思われる。
	48	清富陣屋跡	中世の城館跡。石垣・池跡が残る。寛永年間初期に宮城豊嗣により、村名を「極楽寺」から「清富」に改称し、陣屋が芦屋から清富に移されたもの。陣屋は相応峰寺城と清富城の山裾に位置するが、両城を防衛目的に使おうとした縄張りの改修は確認できない。
	49	観音山城跡 (相応峰寺城跡)	中世の城館跡。縦堀・郭等が残る。中世山岳寺院は、両側を尾根に挟まれた谷部に本堂・庫裏や僧坊を設けるのが一般的であるが、相応峰寺は、大規模な土塁を構築し、さらに尾根筋や坊跡周辺を小規模な平坦面を構築して防御用に曲輪としてあるようにみえる。堀切・堅堀や畝状堅堀の構築は、中世寺院が城砦化している姿であり、時期的には戦国期のものである。
その他の遺跡	50	土塁・堤防跡 二線堤	宮城氏が、清富陣屋の防衛のため、付け替えたもとの岸田川の川筋に沿って、土塁・堤防跡がみられる。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
山岳・高原・ 丘陵	51	観音山	浜坂市街地東部の標高 245mの山で、城山は周囲からのランドマークとなるとともに、良好な視点場となる。山頂に天平 9 年（737）行基によって開かれたと伝わる相応峰寺の円通殿（本殿）がある。山頂からは浜坂の街や矢城ヶ鼻、東の但馬御火浦を見渡すことができる。
その他の 名勝地	52	應峰寺の晩鐘（浜坂八景）	作者の森貞次は七釜屋七代孝一郎の次男、八代孝治の弟で、明治 16 年（1883）生まれ。近江八景にならい、浜坂八景をあげ、随筆『浜坂八景』を著している。
	53	観音山の夕照（浜坂八景）	

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	54	観音山シイの原生林	観音山山頂には、幹回り5m前後のシイの大木が14本、カシの木が3本、タモの木が2本などの原生林が広がっている。この原生林は相応峰寺（開山当時は、九品山極楽寺）の開山当時から残っている原生林と思われる。 町指定文化財
地質鉱物	55	鬼門崎	浜坂湾の東北端にあり、芦屋城の鬼門に当たるので鬼門崎の名がついている。このあたりの地層は流紋岩からできており、その上に礫岩層がのっけていて、北へ傾いている。 国指定名勝及び天然記念物（「但馬御火浦」として）
	56	名水「金水」	観音山の湧き水。眼病、はやり病に効くとされる霊水。
	57	名水「銀水」	観音山の湧き水。眼病、はやり病に効くとされる霊水。

